

## DMR-UBZ1 の展開(14)

### —BPODCH 受信(14)—

#### 1. はじめに

前報(13)の結果を元に LAN ケーブルからのノイズの混入に加えて電源からのノイズの問題に対する対策を講じてみます。

#### 2. BPODCH の視聴方法

前報(13)では DMR-UBZ1 の電源を採っている中村製作所のアモルメット組み込みの電源ボックス NPX-001 に他のところで使用している iPurifierAC を移動して差し込むことと DMR-UBZ1 の電源ケーブルにインフラノイズの Power リベラメンテを使用して効果を認めました。

しかし、電源ボックス NPX-001 の取り口が不足してくることと Power リベラメンテの効果は DMR-UBZ1 のみにしか効果が及ばないことです。

そこで、iPurifierAC とインフラノイズの電源ボックスのタップリベラメンテを追加し、次のような電源の採り方をしてみることにしました。

- 1) タップリベラメンテの給電は NPX-001 から行い、4 口のタップリベラメンテからは DMR-UBZ1 と子機のルーターと Buffalo のスイッチングハブの電源を採る。空いている 1 口には要時 iPurifierAC を差し込む。
- 2) NPX-001 にはタップリベラメンテへの給電の他、その他の機器の電源を採り、要時タップリベラメンテと共用の iPurifierAC を差し込む。

今回は、上記の 1) の対策を施した状態で BPODCH の視聴を行います。その際、同一曲のアナログ、CD との比較も行います。

同一曲各種メディア対比表

曲	アナログ	CD	BPODCH
ブルックナー交響曲 4 番	ハイティンク指揮 RCO	ブロムシュテット指揮ライブ チッヒゲヴァントハウス	ティールマン指揮ベルリンフィル
マーラー交響曲第 1 番	ジュリーニ指揮シカゴ交響楽団	ルイーダ指揮ウイーン交響楽団・アバド指揮ベルリンフィル・小沢指揮ボストンシンフォニー・オラモ指揮ストックホルムフィル	ラトル/ドウダメル指揮ベルリンフィル

マーラー交響曲第3番	ハイティンク指揮 RCO	ジンマン指揮 チューリッヒ TH	フィッシャー/ラトル指揮 ベルリンフィル
マーラー交響曲第5番	メータ指揮ロサン ジェルスフィル	ジンマン指揮 チューリッヒ TH	ラトル/ネルソンス 指揮ベルリンフィル
ファリャ三角帽子	アンセルメ指揮ス イスロマンド	小沢指揮ボストンシン フォニー	メナ指揮ベルリンフ ィル
ワーグナーワルキ ューレ	クナッパブッシュ 指揮ウイーンフ ィル・ショルティ 指揮ウイーンフ ィル	クナッパブッシュ指揮 ウイーンフィル	ラトル指揮ベルリン フィル・ペトレンコ 指揮バイエルン国立 管弦楽団 (BS 録画)
リムスキーコルサ コフシェラザード	コンドラシン指揮 RCO	フェドセーフ指揮モスク ワラヂオシンフォニー・ コンドラシン指揮 RCO	ソヒエフ指揮ベルリ ンフィル
ベルリオーズ幻想 交響曲	クレンペラー指揮 フィルハーモニア	ミュンシュ指揮ボストン シンフォニー	プロムシュテット指 揮ベルリンフィル
サンサーンス交響 曲 3 番	オーマンディ指揮 フィラデルフィア	ミュンシュ指揮ボストン シンフォニー	メータ指揮ベルリン フィル

### 3. BPODCH の視聴結果

まず、タップリベラメンテから DMR-UBZ1 とルーターとスイッチングハブの電源を採るだけで、ディテールの表現が向上し、NPX-001→タップリベラメンテの電源ボックスのシリーズ接続の効果が出ています。さらに、iPurifierAC をタップリベラメンテの空き口に差し込むと、その傾向はさらに増し、ベルリンフィル大ホールのライブ感がリアルになり、個々の楽器の質感表現も向上します。

この条件で、上記の音源違い、再生ルート違いの比較をしていきます。アナログ再生では、すでに [iPurifier AC の導入\(4\)](#) で報告したように、タップリベラメンテに iPurifierAC を差し込み、フォノケーブル、トランスおよびフォノイコライザーのアースも iPurifierAC から採っています。CD 再生では、タップリベラメンテの電源ボックスの iPurifierAC を取り外して、LHH-1001 と DAC-1 の電源を採っている NPX-001 の空き口に移動し、LHH-1001 のシャシーアースもここから採っています。また、DAC-1 のデジタル入力には DACU-500 を装着しています。このようにそれぞれのルートについて最善の条件で比較していきます。

CD 再生では、CD らしからぬ、滑らかで繊細な音になっています。BPODCH の再生では、録音年代が新しく、ベルリンフィル大ホールのライブ感がリアルに聴き取れ

ます。一方、アナログでは個々の音の質感はデジタルにはないものがありますが、他方、録音の時代を感じざるを得ないところもあります。すなわち、それぞれのレベルが向上し、どれかが格段に差を付けられるというよりは、演奏の違いや録音の技術をより正確に把握できるようになったと言えます。上記の個々の曲についての音源と再生ルートの詳細な比較は、シリーズを改めて報告いたします。

BPODCH の再生に関しては、PC 経由の再生との比較の [DMR-UBZ1 の展開\(4\)](#) でありあまり良くない印象を書きましたが、その後の一連の対策で他のメディアと比較しようというところまで到達しました。

#### 4. まとめ

BPDCHO の視聴において、タップリベラメンテから DMR-UBZ1 とルーターとスイッチングハブの電源を採り、iPurifierAC をタップリベラメンテの空き口に差し込むことの効果を認めました。すなわち、これまでのルーターのスイッチング電源のノイズ対策に加えて、電源のノイズ対策が有効であることが分かりました。

以上